

藤沢市社会教育委員会議
平成30年度5月定例会

議 事 録

日 時 2018年(平成30年)5月11日(金)
場 所 藤沢市役所本庁舎8階 8-1, 8-2会議室

平成30年度藤沢市社会教育委員会議5月定例会

日時：2018年(平成30年)5月11日(金)
午前10時から正午まで

場所：藤沢市朝日町1-1
藤沢市役所本庁舎8階 8-1, 8-2会議室

定例会

1 開 会

2 議事録の確認

3 議 題

「生涯学習ふじさわプラン2021」平成29年度進捗管理について

4 報 告

5 その他

6 閉会

(出席委員)

長田祥男・川野佐一郎・石川美保子・市村杏奈・稲垣一郎・稲川由佳・金子節子
金田麻沙子・栗栖淳・長田光子・林良雄・古市勝巳・丸山修由・渡辺智子

(事務局)

須田参事・井出主幹・黒澤課長補佐・川口主任・高橋職員

***** 午前10時03分 開会 *****

長田(祥)議長 社会教育委員会議5月定例会を開会します。
欠席委員の確認及び会議の成立について報告をお願いします。

事務局川口主任 藤沢市社会教育委員会議規則第4条により、審議会の成立要件として、委員の過半数以上の出席が必要とされており、委員定数15人に対し、本日の出席委員は14人で、欠員が1人となっており、会議は成立いたしましたことをご報告申し上げます。

長田(祥)議長 傍聴者の確認をお願いします。

事務局川口主任 (傍聴者の確認)

長田(祥)議長 本日の資料の確認をお願いします。

事務局川口主任 (配付資料の確認)

長田(祥)議長 2月分の議事録の確認をします。渡辺委員から修正がございましたので、本日差しかえ分をお配りしています。渡辺委員より修正箇所についてのご説明をお願いします。

渡辺委員 もとの議事録と修正内容に大差はありませんが、発言でお伝えしたかった部分が若干文脈的に抜けていたように思いましたので、議事録の5ページの下線の部分を修正させていただきました。ご確認をお願いします。

長田(祥)議長 皆様よろしいですか。ほかに訂正はありますか。なければ、これで議事録を確定します。

続きまして、「3議題」に入ります。生涯学習ふじさわプラン2021の進捗管理について、事務局より説明をお願いします。

事務局井出主幹

最初に、資料1-1と1-2についてご説明いたします。プラン2016において、昨年度試行的に今までとは異なる進捗管理を行っていただきまして、成果があったと事務局では考えております。プラン2021につきましても、引き続き同様の流れで進捗管理を行っていくということを前回までにご審議いただきました。

前回の定例会で、任期の1年目、2年目で、進捗管理の流れが若干変わるのではないかとのご意見もありましたので、本日まとめた資料をお示ししております。

まず資料1-1は、プラン2021の事業進捗管理の流れでございます。今年度につきましては、各課が昨年度行った事業を自己評価し、現在生涯学習総務課において各事業の評価の集約を行い、外部評価となる事業の抽出段階でございます。

質問方法やヒアリングの時期、事業の視察というところは、来期以降の協議となる部分もございますが、外部評価はおおむね6月から9月の間に行い、その後生涯学習推進本部において最終評価を行うというPDCAを回す中で、前年度出た評価を翌年各課がブラッシュアップし、事業にどう生かしていくかということ、経年評価で見っていく流れになっております。

次に資料1-2をごらんください。真ん中の列に期日を記載し、4月から11月までの流れについてまとめました。左側に任期1年目、右側に2年目としております。任期1年目と2年目とでは流れが1ヶ月ほどずれる部分がある、ということでお示しさせていただきました。

長田(祥)議長

抽出事業につきまして資料2の説明を事務局からお願いします。

事務局井出主幹

続きまして、平成29年度の進捗管理事業の抽出についてご説明させていただきます。

資料2とプランの冊子17ページをお開きください。プラン2021では重点的取組を定めておりまして、これらの取組を優先的に展開し、着実な達成を図ることを謳っており、まずはこちらの進捗管理を最優先にしていく必要があると事務局では考えております。重点的取組にはア、イ、ウ、エと4つの柱があり、アは地域課題の解決、イは東京2020のオリンピック・パラリンピック競技大会関連事業、ウは生涯学習推進事業の再構築、エは歴史、文化芸術やスポーツ等の多様な資源の活用ということで、それぞれ事業を抽出しております。

事務局の提案といたしましては、まず1点目として、平成28年度の進捗管理の経験から4事業程度の抽出が望ましいと考えております。平成28年度は生涯学習部内の5事業を抽出し、1事業3名で視察やヒアリングを行っていただきましたが、期間が短く、3名では人数的に厳しかったのではないかと感じております。プラン2021は5カ年プランですが、1年目は

まず様子見ということと、任期替えがありますので、4事業程度であれば1グループ4人ぐらいになるので、進捗管理を進めやすいのではないかと考えております。

2点目といたしましては、事業は重点的取組の中から抽出させていただきたいということです。

そして、3点目につきましては、各重点的取組から満遍なく抽出していただきたいということです。ただし、ウの取組は主体が会議体になるため、評価をしづらいということで外しております。事務局案として、ウを除いたア、イ、エの取組からそれぞれ2事業ずつ抽出をいたしました。ほとんどが生涯学習部内の事業ですが、事業No.68は生涯学習部外でして、市民センターにおける地域人材の育成事業でございます。4つのセンターのうち、片瀬市民センターと湘南台市民センターを抽出いたしました。片瀬は郷土づくり推進会議において、片瀬地区人材・情報バンクセンターというものを独自に立ち上げております。地域オリジナルの人材育成を行っている地区でございます。湘南台市民センターは、公民館ではなく地域が行う、地域サポーター育成事業「ゆめまる地域塾」というものがございます。地区内の人材を育成するために、市民活動に明るい団体の力を借りた事業を行っています。

今回事務局が抽出した他の5事業について、説明させていただきます。事業No.33、生涯学習大学市民講師コースは、人材バンクという主に藤沢市にお住まいの方々が、自分の得意わざや知識を生かして市民の方に無償で学びを提供するという制度を25年ほど続けておまして、人材バンクに登録している講師の方々の活動を支援するための事業となっております。藤沢市の社会教育の2本柱は公民館と生涯学習大学でございます。その柱の1つである生涯学習大学を支えていただく人々を育成するのに非常に重要なものだとの認識から、今回抽出をさせていただきました。

次に事業No.26、障がい者スポーツボランティア養成事業は、昔からスポーツサポーターバンクというものが、パラリンピックも近づいているということ、そしてボランティア養成が喫緊の課題ということで抽出しております。

次に事業No.27、オリンピック・パラリンピックボランティア養成事業は、都市ボランティアを募集・養成し、大会に備えていかななくてはならない状況で、その前段階として、ボランティアに関心がある方々に、藤沢市独自のボランティアとして活動していただくものです。下部組織からのボランティアが積み重なって本番を迎えますので、進捗管理に抽出していただきたい事業です。

続きまして、事業No.60、藤澤浮世絵館事業ですが、浮世絵館はオープンして2年目を迎え、いろいろな企画展を現在展開しているところでございます。

事業No.61のアートスペースは、3年目を迎える中で大分軌道に乗ってまいりました。藤沢市には美術館、博物館がございませんので、浮世絵館を含め、今後こういった新しい施設がどのような形で進んでいくのか、ご意見をいただきたいということで、抽出をさせていただいております。

以上、6事業を今回、事務局案として皆様にお示しいたしました。視察を行うに際して、事前に各課に確認をしたところ、通年で開館している浮世絵館やアートスペース等は問題なく、他の事業も視察期間中にフェスタであるとか、講座・シンポジウムを行う予定がございます。市民センターにおきましても、視察期間に事業等を見ていただくことが可能ですので、その辺も勘案して6事業を抽出しております。

長田(祥)議長

重点的取組のウに関しては、事務局の説明のとおり、視察は難しいと感じております。アとイとエにつきまして、何かご意見はありますか。

川野副議長

ピックアップされた6事業について異存はなく、そのとおりだと思います。各自治体では今後自分たちの地域づくりをプランニングし、実行に移して補助金なりを得て事業化していくという方向だと思いますが、国全体の方向性が見えず、各省お任せみたいな感じになっていて、文部科学省が生涯学習の面から、地域づくりを各自治体にどう投げかけていくのかという答申をまとめて検討しているところです。その中で、藤沢市の生涯学習大学や地域人材育成、芸術文化の問題や取組、歴史的な活動への取組は、新たな地域づくりとして売りになると思います。

抽出した6事業を基本にしつつ、文部科学省の生涯学習分科会がまとめている、新たな地域づくりへマッチングするような事業をどのようにして視野に入れていくか。国に動きがあった場合、生涯学習ふじさわプランにはこういう事業がある、と言えるようなアンテナを張っておいたほうがいいのではないかと思います。今は進捗状況の進行管理が中心ですが、公民館などの事業をどのようにキャッチしていくか、皆さんのお考えをお聞きしたいと思います。

稲川委員

文部科学省は、生涯学習というよりも総合教育へと名前を変えて進めていくという認識でよろしいですか。

川野副議長

生涯学習分科会を傍聴していると、そのような方向に秋ごろまでにはまとめるのだと思います。

稲川委員

政策的には、総合教育と地域創生施策がリンクしていくような形で進められわけで、プラン2021の評価の視点に、地域創生という見方を1項目入れておく形にしていけば、何かあったときに具体的に話ができるようになるのではないかと思います。

川野副議長

前回の生涯学習分科会のレポートは2つあり、1つは愛媛県松山市で、観光事業について発表しています。ただし、住民の学びなど基本的な生涯学習の営みが入っておらず、ただ観光政策を議論しているという感じでした。もう1つは、沖縄県那覇市の若狭公民館で、公民館をNPOの指定管理者にして住民が管理し、インターネットを使って情報を発信しているのがすごいと感じました。公民館活動が、住民に対するサービスとしての地域づくり策となるという発表でした。

生涯学習とNPO、福祉や観光との関連について、藤沢市もプラン2021に載せていますよね。

事務局井出主幹

地域包括ケアシステムと社会教育は切っても切れないというところで、プランに地域包括ケアシステム推進室の事業は入っているのですが、推進に向けた普及啓発という漠とした内容となっております。関連する健康事業などもプランには位置付けておりますので、そこをどうつなげてみるかという視点はあるかもしれません。

事務局須田参事

福祉は個別のケアや支援という視点からまとめている事業が多いので、生涯学習のほうに組み込んだとき、人材育成や啓発というところが表に出るようなつくりになっています。

連携は大事な視点ですが、どこまで踏み込んで連携できるか、どのようにコラボするかということがこれからの課題になります。

長田(祥)議長

行政は事業をやるのが目的で、その結果や市民に対しての効果はあまり考えていないように感じていました。しかし、昨年事業視察を行ったところ、行政の意識改革が相当されていると感じることができました。評価については、参加者数や内容だけで判断できません。社会教育委員の評価は大きな役割を持っていると思います。これからの視察等で、それぞれのグループが、何が基準でこの事業がなされているのかということ、事業をされている方たちといろいろ考えて話し合っていたきたいと思っています。

栗栖委員

社会教育委員、あるいは社会教育委員会議といったものの持つ意義や位置づけを意識する必要があるのではないかと改めて思いました。委員のメンバーが変わるときに、いい意味でリセットされるのですが、問題意識としてあるものを引き継ぎ、今回事業を抽出するにあたって、社会教育委員としての基本的な視座を改めて共有したらいいのではないかと思いました。

プラン2021では少し抽象的ではありますが、藤沢らしさということが常に出てきていて、このことを意識して取り組んでいくと、藤沢らしさが改めて確認できるのではないかと思います。

長田(祥)議長 事業を抽出するにあたり、重点的取組のア、イ、エのうちどれかを外すことはできないですね。

事務局井出主幹 できれば満遍なくお願いしたいと思います。

林委員 オリンピック・パラリンピックボランティア養成事業についてですが、ボランティアの育成をどうするかが決まっていない状況がずっと続いています。国からも示されないし、藤沢市における地域のボランティアで何を取り組むか決まっていない中で、事業を視察したり話を聞いても、担当からすれば非常に重荷になるような状況があるのではないかと思います。

事務局井出主幹 担当課に確認したところ、昨年度、そして今年度も養成事業は行っている状況とのことでした。ボランティアの種類によっては市から離れる部分もあるので、本番間近になったときに、何か成果が出ていればそれを皆さんがごらんになったほうが良いということであれば、評価を後半の年度に回すということもありだと思えます。

林委員 もう1つ、一過性と言うと担当者には申しわけないのですが、この事業が結局オリンピックに対してのボランティアという形なので、そこで終わることを考えると、ほかの事業を抽出したほうが良いのではないかと思います。

金田委員 オリンピック・パラリンピックボランティア養成事業のスケジュールを見ると、プランの最終年度の平成33年度に、オリンピック・パラリンピックが終わった後、レガシーとしてボランティア文化の定着を進めるとあります。恐らくこれが最終目標になると思うので、継続的な評価対象事業としてもいいと思います。

林委員 神奈川県国体のときにも同じような状況でボランティアを養成したのですが、長続きせず政策が変わってしまったという状況がありました。オリンピックで活動したボランティアが、その後継続してどこまでやっていけるか、どういう活動ができていくか。開催前のこの時期に養成事業や説明会を視察するよりも、オリンピックが終わった後に、ボランティアがどういう形で継続していて、藤沢市単独のボランティアとしてどういう活動をしているかというところを見られたほうが良いのではないかと思います。

長田(祥)議長 ありがとうございます。
事務局にお伺いしますが、事務局が提示したのから抽出ということでもいいでしょうか。

事務局井出主幹

ただいまの協議を伺いまして、委員の皆様が各課事業の評価を読み込んでいない中で、事業をお示しして、本日の定例会で決めるのは難しいのではないかと感じました。

今年度評価した事業と違う事業を来年度は評価するのか、あるいは経年評価で継続的に見ていくのか、抽出した事業のうち1事業はプランの期間である5年間で見ていくのか等、様々なご意見があると思います。

議長にご提案ですが、委員の皆様には資料やプランを再度読み込んでいただき、本日抽出事業を決定せず、次回の定例会時、さらには7月以降、新しい任期において最終決定ということではいかがでしょうか。

長田(祥)議長

私もそのほうが良いと考えます。

丸山委員

重点的取組には基本目標の1が位置付けられていませんが、評価を行うにあたって、1も含めてはいかがかと感じました。

以前も協議の中で出ましたが、評価の基準が質を中心で行く事業と、量を中心で行く事業、その両面という事業があり、そのあたりを視野に入れながら抽出事業を絞っていく作業になるといいのではないかと思います。

渡辺委員

ここまでの流れと時期的な問題もあるので、根本的なところを変えてほしいという意味ではないのですが、このプラン全体に基本的な構想、市民全体がこうなってほしいという大きな柱があり、いろいろな事業がその下に紐づいています。全体を見ていく中で、目的に応じた事業バランスがあることから、それぞれ少し違う目標がかなえられるような事業をバランスよく抽出したほうが、全体を見ながら各事業についても具体的な評価ができるのではないかと思います。

重点的取組という観点以外に、定番の事業だけでも、市民の人にはこういう意味で大切だから見てみたいとか、いろいろな発想でピックアップできるのではないかと考えたので、今後に向けてでいいのですが、ピックアップするときに、全体を見るという部分がまずあって、その上での抽出という形をとれるといいのではないのでしょうか。

長田(祥)議長

事務局から後日全事業の実施報告一覧が送られるので、各委員検討していただき、ご意見をもう1回伺うというスタンスでよろしいですか。

事務局井出主幹

そうですね。ただいま丸山委員と渡辺委員からいただいたご意見にある「バランス」については、検討すべき事項だと思います。

ただ、プラン2021の評価が今回初年度となりますので、重点的取組は注目が集まる部分であり、「重点的」と謳っていることから評価対象の事

業に含めていただきたいと考えています。例えば、アトスペースや浮世絵館は、プラン2021において新たに位置付けた事業ですので、まだ評価が一切されていません。生涯学習部門の計画ですから、これらの事業評価は、社会教育委員会議だからこそできるものだと考えています。また、現在市民センター・公民館のあり方を検討しており、その中で地域人材の育成が問われていることから、市民センターの地域人材育成・活用事業も抽出しております。

宿題になってしまい恐縮ですが、早急に全事業の実施報告一覧をお送りいたしますので、6月中旬ぐらいまでにどの事業を抽出するか、そしてその事業に対する質問も二、三挙げていただいた上で、4事業抽出していただくということをお願いできればと思っています。

長田(祥)議長

各委員、ご了解いただけますか。

(了解)

それでは、よろしくお願い申し上げます。

続きまして、資料3の意見シートについてのつくりこみについてはいかがでしょうか。

川野副議長

4事業を抽出するということにややこだわっているのは、我々の負担を考慮してですか。

事務局井出主幹

昨年度は5事業、各3人でグループとしましたが、3人だと少しご負担が大きいかなと考え、4人とするならば4事業程度かと考えた次第です。事業数は限定いたしませんので、記入をお願いしたいと思います。集約は、来期の会議で整理していきたいと思います。

稲川委員

事業一覧には事務局側の思いのようなものをつけて、送っていただけるのですか。

事務局井出主幹

委員の皆様のフラットな考えを伺いたいのので、6月の定例会時に皆様からいただいた内容を確認し、必要があれば事務局の意見をお伝えしたいと思います。

長田(祥)議長

では、事務局より資料等の送付をお願いいたします。

続きまして、「4報告」に移ります。最初に、市P連の解散に伴う、新組織の設立につきまして、市村委員からお願いします。

市村委員

市P連の広報誌の最終号をお配りしておりますので、そちらも見ながら聞いていただきたいと思います。60年近く活動してきた藤沢市PTA連絡協議会がことしの3月いっぱい解散となり、「藤沢の子どもたちのためにつながる会」という新しい組織を6月に発足させることになりました。市P

連は年々加入校が減っており、市内55校のうち、最後の4年ぐらいは12校で活動しており、去年検討会を立ち上げ、市P連を解散させて全く新しい組織にしたほうがいいのかという結論に至り、このような形になっております。

市P連と新しい会は別の組織で、市P連でやってきたノウハウは生かしつつ、新しい形でやっていくというものです。市P連では各学校のPTAから分担金という形でお金をいただいていたのですが、新しい会は一切いただかず、藤沢市からの補助金と業務委託金のみで活動していきます。かわせみだよりの裏面に新しい会の形を載せております。今年度は6月、9月、11月、1月の年4回集まりを行い、緩やかにつながっていく予定です。正式な発足は6月9日になりますので、これからまたご報告していけたらと思っています。なお、4月22日・23日に神奈川新聞がこのかわせみだよりをもとに記事を出しており、神奈川県PTA協議会の会長がアンケートに答えています。何かもめたから県Pを抜けたとか、市P連を解散させたということではなく、藤沢市全体でつながっていくということで、このような形になったということをぜひご発信いただけたらと思います。

金子委員

新しい会への入会は個人になりますか。

市村委員

会員の対象は、市内55校の小・中学校の全ての保護者と教職員です。市P連のときは加入・未加入があり、活動のメインとしては、PTAとかPTAに準ずる組織の支援、交流でしたが、市内には組織がない学校もありますので、新しい会では、藤沢市の保護者と教職員全てが対象、1人1人が対象といった形でやっていく予定です。

金子委員

市P連に入っているところと入っていないところの情報交換もできませんでしたし、情報量も全然違うので、新しい会の形はいいと思います。

渡辺委員

個人個人で参加できるということですね。

市村委員

単Pあるいはそれに準ずる組織がある学校でも、いろいろ悩みを抱えているから聞いてほしいというところがたくさんありますので、学校全体の支援活動の一環として企画も立てていますが、会は、1人1人が参加していただくような形になっております。

金子委員

一番難しいと思うのは教員だと思っています。お子さんと保護者は、入りたければ入りますが、教員は異動もあり、各々PTAの考え方というのがあり温度差があります。

市村委員

去年1年、新しい会の検討委員として小学校、中学校の校長会や教頭

会からも入っていただき、保護者側と教職員側で話し合いを行い、この会のことについては校長会でもお話しさせていただく機会がありました。発信もさせていただいているので、教員も同じ気持ちで活動できるのではないかと期待しています。

長田(祥)議長

続きまして、社会教育委員活動の報告で、神奈川県社会教育委員連絡協議会第1回理事会に出席された稲川委員から、ご報告よろしくお願ひします。

稲川委員

平成29年度第3回理事会が3月16日に開かれ、29年度に行われた実施事業と、会計について報告と承認などが行われ、30年度の事業計画については案が提示されました。また、市町村の社会教育委員に関する調査の集計結果が配付されました。議題として、全国社会教育委員連合の運営について話し合われ、全国的に今非常に予算が厳しいということで、どのように運営をしていくかということ、この全国連合が本当に必要なのかという話も出る状況で、維持していくことについての意見交換が行われました。

続きまして、平成30年度の第1回理事会が4月20日に行われました。議題としては、29年度の事業報告、会計報告、30年の事業計画について、それと収支予算についての報告と承認を行いました。全国社会教育委員連合表彰候補者の選考についても話し合い、30年度の役員選出も行い、綾瀬市と秦野市が副議長として推薦されました。全国社会教育連合の会長でもいらっしゃいます鈴木眞理さんが引き続き神奈川県の会長と決定いたしました。全国社会教育委員連合の運営に関しては、県のほうに一任するということになっています。

今年度は総会が6月12日にかがわ県民センターで行われ、地区研究会は11月21日に茅ヶ崎市、31年1月25日に伊勢原市で行われます。研修会は8月23日にかがわ県民センターで行われます。第49回関東甲信越静社会教育研究大会は長野県長野市で11月15日から16日に行われます。

長田(祥)議長

続きまして、石川委員から報告をお願いします。

石川委員

図書館協議会の第4回協議会が3月27日に行われました。1点目は、2月議会における質疑についてで、今後の図書館行政の方向性に関する質問に対し、誰もが気軽に集える居場所となり、人や地域とつながることで、より豊かな人生を送ることができるように藤沢らしい図書館の発展を目指していくという答弁を行ったとのことでした。

2点目として、平成30年度予算概要の主な増額内容と主な減額内容、運営管理費、図書館の活動費の報告がありました。また、事故で亡くなっ

た市の教員の両親より、教員の遺志による寄附があり、図書の購入費に充てるといった報告がありました。

3点目は、夏に行った図書館利用者アンケートの自由記載欄の中間報告で、まとめを夏までにすることでした。

4点目は、1月から3月までの各図書館での展示、行事についての報告がありました。

長田(祥)議長

ありがとうございました。報告について質問はございますか。

市村委員

先ほどの稲川委員のご報告の中で、6月12日の総会のもう少し詳しい内容を教えてください。

事務局川口主任

理事会資料の11ページに、総会の内容案が記載されております。議長、前後してしまいますが、説明させていただいてもよろしいでしょうか。

長田(祥)議長

はい。

事務局川口主任

(内容説明)

県から正式な依頼が来ましたら改めて皆様にご通知させていただきますので、ご出席の可否についてご回答いただければと思います。よろしくお願いたします。

川野副議長

理事会資料の収支予算ですが、横浜市の29年度の負担金予算がゼロとなっています。その理由として、社会教育委員会議の活動が休会するので予算措置をしないという話を聞きました。30年度を見たら76,000円となっていますが、この理由について説明はありましたか。

稲川委員

社会教育委員会議が復活し、今年度は会議を開催するため、予算措置がなされたとのことでした。

林委員

資料はありませんが、3月20日に市民ギャラリーの運営委員会があり、市民ギャラリーの使用料の値上げについての報告がありました。

長田(祥)議長

5その他につきまして、何かございますか。

石川委員

進捗管理について確認ですが、事前質問と意見シートをお送りいただくというご説明でしたが、質問・意見はその事業に対して記入する感じですか。

事務局井出主幹

今回の進捗管理に関して、進捗管理全体に関する意見についてはどう

しようかと悩んでいます。一覧全体を読んで何か感じるものがあれば、欄外に書いていただければと思います。

抽出した事業名について、ピックアップした理由がもしあれば、あわせて書いていただいても結構です。

長田(祥)議長

私のほうから1点報告をいたします。3月24日、25日に藤沢市との共催で文化団体連合会でわくわく体験広場を行いました。2日間で延べ1,740名の参加がございました。来年は3月30日、31日に予定しております。

また、4月26日から5月1日まで、市と教育委員会の後援をいただき、さいか屋で神奈川県華道展を開催いたしました。6日間で15,297名の来場がありました。その内、有料入場者は291名でした。

事務局川口主任

事務局からも1点申し上げます。生涯学習総務課で行う事業、「初めての中国語」「外国人へのおもてなしのためのやさしい日本語講座」のチラシをお配りいたしました。オリンピック・パラリンピックに向けてということで、外国人の方に対するさまざまなボランティア活動へのきっかけとして企画したもので、やさしい日本語講座については、すでに定員を超える申し込みがあり、抽選予定になっております。市民の皆様のオリンピックに対する関心がすごく高いと感じております。

金田委員

3種類チラシをお配りさせていただきました。4年ぐらい前からおおむね30歳未満の「若者」と定義している人たちを、地域のNPOで長期のインターンとして受け入れていただくというプログラムを行っています。地域にかかわる機会が少なくなると、地域のことを知る機会が減るという問題と、団体の高齢化やマネジメントの仕方がわからないという問題があり、その双方の問題を解決するために、このプログラムを立ち上げ、参加者と受け入れ団体の両方を募集しています。参加者の説明会を5月24日と6月2日に市民活動推進センターで行います。ご興味のある高校生以上の若者がいらっしゃいましたら紹介をお願いします。

受け入れ団体につきましては、法人格がなくても活動の実績が複数年ある場合には対象になりますので、興味を持つ市民活動団体をご存知でしたら、ご紹介していただければと思います。こちらは5月14日の18時半から市民活動推進センターで説明会を行います。

A5サイズのリーフレットは、私どもの団体が東京オリンピック・パラリンピック開催準備室と共同運営で市民応援団というものを立ち上げて、事務局を担っております。応援団に入るためには、リーフレットの裏面のQRコードで登録すると、オリンピック・パラリンピックに関するイベント情報などのお知らせが届き、情報が届いたらそこに参加してみるとか、イベントのサポートボランティアをやってみたりという、最初のハードルを乗り越える

きっかけになればと思っています。また、団員ミーティングという、自己発信ができる場所を来年の2月、3月あたりに実施することを想定しています。何かやってみたい、人が足りないから人を巻き込んでやってみたいという方がいらっしゃったら、この機会を活用していただければと思います。

石川委員 応援団への参加は何歳からですか。

金田委員 年齢は問わず、市外の方でもいいですし、参加の理由は何でも大丈夫なので、ぜひご登録をしていただければと思います。

金子委員 登録して、忙しいときに抜けたりすることは大丈夫ですか。

金田委員 情報が入ってくるので、自分で選んで、やれそうだったら参加すればいいというスタンスです。ことしは1,000人、2,000人規模での登録を目標にしています。鈴木市長は43万人と言っています。周りの方にもぜひ周知のほどをお願いします。

長田(祥)議長 それでは5月の定例会を終了します。次回の定例会の日程につきまして、事務局からお願いします。

事務局川口主任 次回は今期最後の定例会となりまして、日程につきましては、6月29日金曜日、午前10時からを予定しております。場所は8-1、8-2会議室です。開催通知につきましては、定例会のおおむね1週間前に議事録とあわせてお送りさせていただきます。

抽出事業に関する質問・意見シートは、改めてデータでお送りいたしますので、期日までにご返信ください。事業一覧につきましては、近日中に郵送させていただきたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

***** 午前11時59分 閉会 *****